



黒瀬 隆志
公明党

介護保険施設での虐待防止の取り組みは

問 高齢者虐待防止法では、虐待に気付いた施設の職員は市町村に通報することが義務付けられている。虐待を防ぐには施設の職員の認識を高めることが喫緊の課題だが、どう取り組むのか。

答 高齢者虐待防止法の制定を受けて、20年に高齢者虐待防止対応マニュアルを作成し、施設に向いて行う実地指導の際には、研修の実施状況や利用者、家族からの苦情の処理体制の整備状況などを確認し、虐待防止に努めてきた。今後は、介護施設の職員を一堂に集めて研修を行う集団指導を開始し、介護職員による施設内での虐待が二度と起こらないよう、指導の徹底を図る。



田中 光洋
誠勇会

子育て支援のための人づくりは

問 家庭教育の充実に向けて『親の力』をまなびあう学習プログラム[※]の出前講座を実施しているが、①開催回数、②受講者の感想、③今後の展開は。

答 ①11月末現在47回で、今年度末には60回を超える見込みである。②「悩んでいるのは私だけではないと気付き、気持ち楽になった」「親同士のネットワークづくりにつながった」など、好意的な感想が多く出されている。③学習会に参加されない親の存在も視野に入れながら、学校や地域企業などとも連携し、親として成長するための学習の場の提供や、将来の親となる中・高校生を対象とした講座の実施などに取り組む。



今川 享治
誠勇会

農地や森林の保全と活用は

問 ①里山[※]里地モデル地域での協働活動の状況は。②モデル事業終了後の仕組みづくりは。③里山里地協力隊や協定企業の耕作放棄地再生活用モデル事業への関わりは。

答 ①山手・津之郷地域は15回

実施し、散策道の整備などに延べ449人が参加、山野地域は10回実施し、耕作放棄地の解消と特産農産物の生産などに延べ380人が参加、赤坂地域は2回実施し、林道の改修などに延べ131人が参加した。②農山村地域の活性化や水と緑の再生を図るため、取り組み状況を検証し、継続的に実施されるよう取り組む。③積極的に関わっていけるよう取り組み、市民との協働による持続可能な農村の地域づくりを促進していきたい。



稲葉誠一郎
誠勇会

社会体育施設の整備は

問 市社会体育施設基本計画が示されたが、計画期間等の具体はいつ示されるのか。

答 社会体育施設の整備は、利用人数だけで存廃を決定するのではなく、地域性を考慮したり、競技団体と連携し各競技の競技人口を増やし利用人口を増やす

ことが、競技力の向上につながることを考えるが。

答 社会体育施設の整備は、効率性や地域バランス、利便性等に配慮しながら、今後、具体的な整備の内容や時期を検討する。

スポーツ環境の整備は、競技人口の拡大や競技力の向上にもつながるもので、市民の誰もが、いつでも気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、社会体育施設の再整備に着実に取り組む。

※『親の力』をまなびあう学習プログラムの出前講座：親としての学びを支援する学習会の話し合いを促す役として養成した市民ボランティアが、保育所や小学校等に出向き、話し合いを通じて、参加した保護者自らが課題に気付き、考え、行動化につながるようにするもの。